

Yacht et Oide

125-0035 東京都葛飾区金町長塚ビル 303 TEL(03)3627-8989
 特定非営利活動法人日本障害者セーリング協会
 Parasport Sailing Association of Japan (PSAJ)

日本の海にパラリンピック レガシー 海の障害者用設備指針

IPC のアクセシビリティガイドを基に当事者から

海の障害者設備研究会では現在、『海の障害者設備指針』の作成を進めています。

これは2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けて海洋・港湾施設のバリアフリー化やユニバーサルデザインを取り入れた施設整備が一層重要となることを踏まえ既存の指針を改訂拡充するものです。

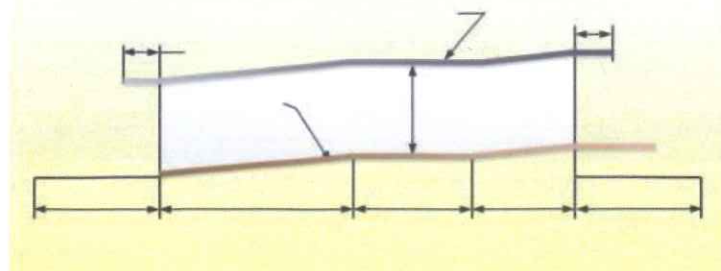
国土交通省、国土総合研究所の協力を受け6月12日に神奈川県いざないの湘南港（江の島ヨットハーバー）において行った実証実験のデータとIPCアクセシビリティガイドを基にし、当事者ならではの視線感覚を持って実践的な数値や条件設定を策定中です。

いまや世界に類を見ない超高齢社会となり、また誰もが活躍できる社会を目指す日本にとって、このオリンピック・パラリンピックの開催がよりハートフルな社会へと変わる大きな契機になることが期待されています。

新しい『海の障害者設備指針』がより多くの人々の「海への誘い」となりバリアフリーへの関心が高まること、さらには「2020東京オリンピック・パラリンピック」によって世の中の意識が変わること。これこそが真のレガシー（遺産）となることを期待しています。

障害者設備研究会部会長 志田裕之

各部の数値は現在最終検討中、もうすぐ出来ます。



『海の障害者設備指針』は編集作業に入ります。地方整備局、都道府県他、港湾関係者、福祉関係者に配布予定です。

全ての人々が、個人の機能的能力に関係なく、同じ体験あるいは同じ水準のサービスを受けられることです。

障害者セーリングコーチ養成講習会 パラセーリングコーチ



平成 29 年 8 月 26 日（土）27 日（日）蒲郡パラセーリングベースキャンプ及び蒲郡荘会議室において、障害者スポーツ協会のコーチ制度にならい、パラセーリングコーチを養成する講習会を実施した。

受講者資格はパラセーリング指導者、日体協中級指導者以上、日本障害者スポーツ協会中級指導員以上。

障害者セーリングコーチ養成講習会コーディネーター 株式会社アイ・シー・エス。

パネリスト、講師に八代勉（筑波大学名誉教授、元日本体育スポーツ経営学会 会長）、松山和興（佐賀県ヨット連盟理事長）、澤江幸則（筑波大学体育系准教授）、前園昇（JSA ルール副委員長）、石津基行（筑波大学大学院体育学修士、日本体育協会上級コーチ） 渡邊雅子（特例子会社ジョブコーチ、PSAJ 総務委員長）、野口郁子（元筑波大学大学院研究員、健康運動指導士）、大塚勝（日本障害者セーリング協会代表）を迎えて実施された。

内容は、コーチ指導者制度、社会貢献、障害者スポーツと人権、パラリンピック、ボランティアとの協業、国際レースとルール、メダリスト育成、アダプテッドについて、運動生理学における機能解剖学の実践、障害者関連法規の高度な講習とパネルディスカッション「社会とスポーツの繋がり～バランスを知る～」が行われ、国際的なパラセーリングコーチとしての見識を高め、充実した養成講習となった。

受講者よりパラセーリングコーチ登録がなされ強化チーム、パラリンピック、国際レース、強化合宿の代表コーチやパラセーリング講習等の講師、テクニカルデレゲート等として活躍していただきます。

参加者より

二日間の講習会、大変お世話になりました。

豪華な講師陣による講演は、従来の知識の気付きと、社会情勢を踏まえた、情報と日本トップの見解を伺えてこの上ない充実した後援に参加させて頂いたことは、大変幸せであり、且つ充実した二日間でした。

普段の生活ではとてもお話が伺えない八代先生を初め松山先生、澤江先生、野口先生の特別講師陣には大変感謝です。

皆様の講師内容は、記憶と記録に克明に残し、今後のセーリングコーチの礎にさせて頂くべく、更なる努力をする所存です。

また、このような講習会を会員の皆様にも広く経験して頂く事も重要かと思いますので、我々も含めたコーチ陣の更なるスキルアップや広い情報の共有も必要かと思いました。

講師の皆様及び講習会を主催していただきました皆様に感謝申し上げます。有難うございました。

パラセーリングボランティア指導者講習会 東京

安心・安全まずはパラセーリングを学びましょう

講習内容：障害者スポーツ/パラリンピック/障害者用設備/ボランティア/障害体験/介助障害の留意点/差別解法等

日時：平成 29 年 11 月 19 日（日）10:00～17:00 会場：東京夢の島マリーナ 2F 会議室

会費：本会会員、障害者スポーツ指導員、東京ヨットクラブ会員 無料 /その他、5,000 円。

講師：パラセーリングコーチほか。

※申請でパラセーリングボランティア（アソシエイト）/パラセーリング者に登録します。

※ヨットに乗ってセーリングの講習はありません。

主催： 特定非営利活動法人日本障害者セーリング協会

問い合わせ・参加申込み：khc03073@nifty.com まで



パラセーリングチャレンジ千葉

スポーツくじ

~~多様なセーリングの楽しさを伝える~~



地域行事実例見本



7月29日30日、8月19日20日「夏の1日パラリンピックを目指す」として、千葉障害者セーリング協会との共催で実施。

また障害者セーリング紹介の実例サンプル行事として、ディンギーからクルーザー、初めて乗るセーリング体験からレース体験、パラリンピック紹介や少しだけ社会貢献、インクルージョンの説明もし、障害者、ボランティア共に理解を深めていただきました。

安全安心の観点から、登録のパラセーリングボランティア（アソシエイト）、パラセーリング指導者の方々の参加をいただき、STAFF ポロシャツを支給、介助や案内指導に参加者がすぐわかるようにした。

4日間とも雨が心配されましたが、夏には珍しく曇り（会場以外では豪雨も有った）暑さで参ることも無く風方は微風～中風、強弱が激しかった。

参加者は11歳から65歳まで、肢体障害、視覚障害、知的障害、精神障害の方々がディンギーとクルーザーでセーリングの楽しさを幅広く体験。

会議室ではセーリングパラリンピアンの話、コーチによる帆走説明、ロープワークの座学、海ではセーリング体験、レース体験と盛り沢山の内容でした。

参加者からは次の日も参加したい、2024パラリンピックを目指す都の若い子も現れ、家族でヨットを習う、楽しかった、海から見る千葉の景色は初めて等々のお話を伺いました。

又地方からの見学者も有り、本行事を手本に地域で障害者セーリングの実施を考えるそうです。

レース結果	1R	2R	3R
1位 山本さん	1	1	2
2位 吉田さん	3	2	1
3位 大場さん	2	3	3

後援：千葉市/一般社団法人千葉県障害者スポーツ協会/社会福祉法人千葉市社会福祉協議会/公益財団法人千葉市スポーツ振興財団 /千葉市ボランティア連絡協議会

インクルージョン推進委員会発足

障がい者を含む全ての社会の構成員が個人の機能的な能力に関係なく、公平に、尊厳を持って個々の目的に相応しいサービス・施設を利用できるアクセシブルな社会の実現を目指して行きます。

欠格条項、合理的配慮、差別解消法、設備指針、強化合宿、ボランティア等々、障害者のための社会関連行事を推進して行きます。

東京ヨットクラブレース

山本真也さん（いちょうII）参戦

- 第2戦：スプリングレガッタ 2017年4月16日
クルージングクラス 2位 総合 12位/27艇中
- 第3戦：東京港レガッタ 2017年5月28日
クルージングクラス 2位 総合 17位/26艇中
- 第5戦：七夕レガッタ 2017年7月2日
クルージングクラス 3位 総合 16位/27艇中

障害者野社会参加機会向上 パラセーリングキャプテン(船長)チャレンジ ヨットクラブ・マリーナと協業に貢献

平成27年障害者差別解消法が成立し合理的配慮が話題となり、欠格条項改善に取り組んだ小型船舶操縦士試験についても一度知ってもらおう行事の提案がヨットクラブ関係者から有った。これを受けて平成28年本行事開催に向けて助成申請、平成29年度助成が決定し障害者週間近辺にパラセーリングキャプテンチャレンジを地域のヨットクラブの協力を得て実施することとなった。

エンジン付きヨットの船長は、小型船舶操縦士免許が必要となります。障害者にも免許取得の道があります。小型船舶操縦士の免許を取得して、船長として健常者と同じようにマリンレジャーを楽しんだり、仲間とレースに参加することもできます。

過去には、身体状況(欠格条項)で受験ができませんでしたが、本会の働きかけで試験の合理的配慮が払われ、一定の身体基準を満たせば受験への道が開け、多くの障害者が船長の免許を取得しています。

障害者差別解消法が施行されて1年、障害者週間の時期にエンジン付きボート、ヨットの海洋レクレーション体験やこの小型船舶操縦士免許の受験体験によって、障害者のマリンスポーツへの普及と欠格条項が改定された人権啓発を兼ね、障害が有っても小型船舶免許受験の道が開けていることを示し、障害者のマリンレジャーでの社会参画機会の増加を図ることを目的とする。

参加対象者：肢体障害をお持ちの16歳以上の方

実施内容：○エンジン付きヨットでクラブレース等に参加している障害者の講演。

○エンジン付きヨット、ボートに乗船し操船船長体験。

○国家試験用のボート乗船体験。

○船舶免許取得の為の試験機関による身体検査。

【愛知】

開催日：平成29年11月11日(土)～平成29年11月12日(日)

開催会場：竹島埠頭パラセーリングベースキャンプ及び蒲郡港マンボウ棧橋

協力：三河湾クルージングクラブ/三谷漁港利用者会ヨット部会

後援(申請中)：愛知県

【東京】

開催日：平成29年12月9日(土)～平成29年12月10日(日)

開催会場：東京夢の島マリーナ

協力：東京ヨットクラブ/東京夢の島マリーナ(スバル興業株式会社)

後援(申請中)：東京都

後援(予定)：国土交通省、厚生労働省、一般財団法人日本海洋レジャー安全・振興協会

主催：特定非営利活動法人日本障害者セーリング協会



オリンピック・パラリンピック教育推進支援事業協力

東京都教育委員会のオリンピック・パラリンピック教育への推進支援事業の協力依頼が来ました。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を子供たちの人生にとってまたとない重要な機会と捉え、国際社会に貢献するとともに、東京、そして日本の更なる発展の担い手となる人材育成を趣旨に、都内全ての公立の幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、中等教育学校、高等学校及び特別支援学校を対象にオリンピック・パラリンピック教育が行われています。

重点的に育成すべき項目は、ボランティアマインド、障害者理解、スポーツ志向、日本人としての自覚と誇り、豊かな国際感覚です。

本会活動がこれに合致する部分が有り、オリパラ教育プログラムの一環として講演講習プログラムを作成し、教育メニューとして各学校に紹介、学校が多数の講習プログラムから講習を選び、オリパラ教育の一環として学校で講習するものです。

本会メンバーの豊富な経験知識に基づき、重点的に育成すべき5つの資質のどれかをテーマに講習講演プログラムの作成を行います。この講演講習等のプログラムへの提案がございましたら事務局までご連絡下さい。

共に講演講習プログラムを作りましょう。

パラリンピックに向けて進んでいます

セーリングが競技から外れ、2024年復活に望みをつないでいます。

2024年競技復活の日程は、

2017年（7年前）パラリンピック競技プログラムの見直しを行なう。

2019年（69か月前）競技種目の決定。運命の時。

少なくとも3地域、32か国で、広く定期的に行なわれている競技であること。

2022年（30か月前）競技ごとの種目の決定。出場資格の基準の決定。どのヨット、男女別どうなるか。

2024年開催都市、パリかロスかももうすぐ決まります。

競技数の上限は（夏季）22競技。

競技の種目は（夏季）450まで。

最大参加人数（夏季）、選手4,000人、役員、サポート2,200人

障害者セーリングボランティア指導者講習会報告

7月8日9日愛知蒲郡、8月22日23日横浜で実施。

パラスポーツと人権、ボランティア、障害体験、介助体験、パラセーリングの留意点、設備注意、差別解消法など個々の理解を深めパラセーリング実施の安全安心の向上となる講習を行った。



講習後、申請によりパラセーリングボランティア（アソシエイト）、パラセーリング指導者に登録した。

知識を生かし地域のパラセーリング行事や PSAJ 行事など参加いただき、安心安全なパラセーリングとなるよう活躍下さい。

パラセーリングボランティア（アソシエイト）/パラセーリング指導者の皆様、スタッフ参加のお願い

パラセーリング行事が安全安心に実施できるよう、講習ノウハウを生かし行事に参加下さい。

※基本的に旅費、宿泊は各自負担。弁当の用意、が有る場合が有ります。

※行事により遠隔地から参加の場合、宿泊を提供する場合も有ります。

※定員、キャリヤ等で選考する場合があります。ご了承いただき参加申込み下さい。

スタッフ参加をお願いする行事

○パラセーリングキャプテンチャレンジ（東京、愛知）。

○強化合宿。

※参加の申し込みは必ず PSAJ おこなって下さい khc03073@nifty.com

強化体制新しく実施

前回会報ご案内した選手の競技レベルの再検討、障害者スポーツとしてのコーチ体制の強化等を行い、新強化体制で強化を実施いたします。

強化は、強化部会が計画し実施します。コーチ講習を終えたコーチが当たり、パラセーリング指導者からスタッフを募り実施します。

強化選手は、強化指定選手A、強化指定選手Bと分けて指定します。

強化開催地は、障害者の強化ですので障害者用設備が有り、集まりやすい蒲郡を核に、新設備指針の基準に合致したところで実施。

強化には、障害者故の物が沢山あります。WHOなどの勧告に敏感で今年から禁煙について指導が始まります。病状の悪化など沢山の注意点が有ります。ドーピングなどの健全者に比べて薬の使用料が多い傾向が有り特に注意が必要等々、諸々のキャリアも必要となります。

強化部会では長年のノウハウと各資格講習での識見を持った代表コーチ達で真に国際レースで活躍する選手を育てます。

強化指定選手制度の実施について

強化部会長 水津岳太郎

2024 パラリンピックに向けて、日本の障がい者セーリングのレベルアップには、代表チームの強化、指導者育成、次世代育成の三位一体が必要になります。

その取り組みのひとつとして代表チーム強化を目的に強化指定選手制度を見直し、実施します。

強化指定選手制度

強化指定選手は、強化指定選手AとBに分けられる。

強化指定選手は、自薦他薦により候補選手となり、候補選手のうちより強化部により選ばれる。

強化指定選手A

パラワールドセーリング世界選手権に参加、上位の可能性のあるもの。

上記大会に代表チームとしての自覚を持ち参加する強い意思のあるもの。

メディカルチェックをパスしたもの。アンチドーピング講習を受講したもの。

定期的に日頃のトレーニング状況、活動近況を報告可能なもの。定期的に服用薬の情報を提出できるもの。

一般的な社会規範を守れるもの。喫煙者不可とします。

指定の強化行事に参加できるもの(やむ得ぬ事情による不参加の場合は別途考慮)

日本障害者セーリング協会の強化指定選手としてマスコミへのメディア対応の可能なもの

指定された強化行事への参加は、交通費宿泊費は本会で負担する場合もある。(詳細別途)

強化指定選手B

次世代育を主眼とし、復活後の2024パラリンピック、パラワールドセーリング世界選手権に参加の意欲のあるもの指定された強化行事への参加は、宿泊費の一部を本会の負担とする場合がある(詳細別途)

活動状況により強化指定選手Aへ変わる。

強化指定選手制度は代表チーム強化、次世代育成を計り、世界選手権常時出場、2024パラリンピック出場、延いては入賞、メダル獲得を目指していきます。

強化合宿

日程	会場	参加者
9月30日～10月1日	蒲郡パラセーリングBC (アンチドーピング講習、禁煙講習有り)	強化選手A、B。どなたでも申込み者より選考。
12月2日～12月3日	蒲郡パラセーリングBC	強化指定選手A
2月11日～2月12日	調整中	強化指定選手B
パラトライアル新人体験合宿		
11月18日～11月19日	千葉市稲毛ヨットハーバー	新人、申込み者なたでも。

参加者募集

9月30日は国際レースでは必ずあるドーピング検査。アンチドーピングへの理解向上にJADAより講師がきて講習します。皆さまの参加をお待ちしています。

問い合わせ・参加申込み khc03073@nifty.com まで

※今後強化合宿の追加有ります。情報にご注意下さい。

Para World Sailing Championship 2017 参戦レポート

リオ 2016 パラリンピックの出場権を逃した 2015 Para World Sailing Championships Melbourne から 1 年半、東京 2020 パラリンピックからセーリング競技も無くなった。Para World Sailing の種目は、二人乗り SKUD と三人乗り SONAR が無くなり、新たに HANSA303 男子シングルと HANSA303 女子シングルが採用となる。本大会は、新たに HANSA 種目が採用されて初めての大会である。その新しい HANSA303 男子シングルの種目に私は出場しました。HANSA303 男子シングル種目には、日本チームを含めて 31 チームがエントリー、その中で私の目標はシングルの順位 (9 位内) に入ることでした。本大会 5 日間で計 9 レースを戦った私の最終成績は 21 位、目標に遠くおよばずまた悔しい結果に終わりました。世界の舞台で勝ちたいという強い思いで挑みましたが、世界の舞台では簡単に勝たせてもらえないことをあらためて痛感しました。金メダルのポーランド選手と銀メダルのオーストラリア選手はどちらも HANSA の操船を知り尽くしたベテラン選手、銅メダルのドイツ選手は元 SONAR のスキッパーです。

本大会に出場するもう一つの大きな目的がありました。それは、本大会を盛り上げて、2024 パラリンピックでセーリング競技を復活させて次の世代へ繋げることです。パラリンピック競技復活に向けた本大会に、日本チームが参加したことに大きな意義があったと感じています。日本チームを派遣した PSAJ 事務局のご尽力、日本から多くの方々の沢山の応援に心より感謝いたします。また、本大会で使用したニューセイル JPN1664 とアダプテーションのクッションの無償貸与、大会前の自主練習を無償支援していただいた江の島ピッコラクラブの皆様にご心よりお礼申し上げます。

今後私が Para World Sailing Championships Hansa303 男子シングルに再挑戦しメダルを狙うためには、アダプテーションとしてクッションではなく新たに自分に合ったポケットシートの用意、風速 10m/s 以上の条件で風上に移動しアンヒールさせるなどの練習の積み重ね、体幹強化のためのフィジカルトレーニングが必要と考えています。

障がい者セーリングのパラリンピック競技復活と次世代に繋げるために、私自身にできること・すべきことをこれからもがんばっていきます。

山本 真也



行くぞ、海に！「ひと・人・ヒトヨット in 蒲郡」

今年で 21 回目となる「ひと・人・ヒトヨット in 蒲郡」、真夏の 7 月 15 日 16 日に実施いたしました。

当初は、車椅子に乗って防波堤を越えると「早まるな！」そんな声かけから 21 年。

アメリカズカップ日本チャレンジベースキャンプ跡地に国内唯一のバリアフリー浮き桟橋「マンボウ」が設置いただきました。



大学や看護専門学校、高等学校ボランティア部の教育の一環として企業やお店が CSR や職員研修の機会として、怪我や病気で社会に出る機会を失いかけた皆さんの希望として海を時には家族以上に愛するヨットマン達が、更に仲間を向かい入れる為に今年も集まりました。

関わる人が入れ替わる中で、想いを継続する事の難しさを昨年より深く感じ始めました。

そんな中でも、支えていただいた方々からエールを送ってもらい、これまでの参加者の皆さまからの考えを知ることが出来ました。

21 年連続のチャレンジ、気が付けばこの海で今年も仲間を増やせました。ありがとうございました。

実行委員長 金子哲三